

年度	H 16	H 17	H 18 19	H 20	H 21	H 22	H 23	聴覚障害学生	情報保障に入る手話通訳者
職員状況	2名(全国で初めて、手話通訳者を職員として雇用)	3名	(不在 ※手話通訳ニーズなし)	6名	4名	4名(うち1名はろう者)	(同左)	手話通訳ニーズをもつ学生は、3名(6名中)。	通訳者協会などの団体に仲介をお願いするのではなく、支援室が独自に発掘 謝金は群馬大学規定による 依頼にあたって、資格の有無は考慮していない

試行錯誤の日々

大学での手話通訳
場面は年々増加

大学での講義通訳の困難さ

環境	資源	知識・技術
<ul style="list-style-type: none"> 「手話で情報保障がはたしてできるのか？」という誤解・偏見 地域の手話通訳派遣要綱と支払い基準が違う 	<ul style="list-style-type: none"> 学生のニーズ増加においつかない 日中動ける手話通訳者を確保することさえ難しい 	<ul style="list-style-type: none"> どうしても内容が分からなければきちんとした通訳はできない 一朝一夕に理解できる内容ではないことも

困った!	取り組み	成果
手話通訳者が足りない!	地域の手話通訳者との合同研修会を実施。希望者には、講義通訳の機会提供(無償)	大学通訳現場への理解が広まる 支援室としても、実際の講義通訳の様子を見ることができるようになる(スカウトにつながる)
通訳者にとって必要な講義情報が直前まで分からない	手話通訳者が決定したら、氏名を担当教員に伝える(CCで対象学生にも送る)	必要と思われる講義の日程、流れを自主的に教えてくれるようになった
これどう表すの?	活動報告書に記入してもらい、リスト化。対象学生本人に確認、ろう職員の意見を聞く	初めて通訳に入る人たちにも事前資料として渡せる 対象学生も手話通訳に対してのニーズ芽生えが出てくるように
予定時間を過ぎても講義が続く...	全ての時間の情報保障はできないことを伝え、級友や担当教員に筆談などで対応してもらおうよう依頼	同級生でテイクしあうなど自然なヘルプの様子ができあがっていった!

よりよい手話通訳をめざして

<職員>
◆反省会
◆手話通訳場面を撮影したビデオを見ながら、
・聞きもらし表現
・意味理解不能表現
・理解したが表出不可の表現
に分類し、自分なりに克服課題をまとめる

<地域との合同研修会>
◆手話通訳強化をめざしろう者の講演を模擬通訳
◆ビデオを見て意見交換

・問題を可視化して共有
・助言しあう関係づくり

・手話通訳者の活用について意見交換
・講義の充実

・教材として手話撮影をお願いします
・研修会にゲストとして参加してもらおう

デフコミュニティで育てられた通訳

養成機関で養成された通訳

さまざまな状況に対応できる手話通訳

手話通訳者

大学(教職員)

学生



信頼関係

づくりの大切さ

ニーズの自覚

手話通訳を活用する力

エンパワメント

学生からの要望・不満をもっと引き出すには?

手話通訳者ののびしろを見るには?

これからの課題

手話通訳者としてどこまで“介入”すべきか?

先生に、こんなことを言われてしまったら?

練習できる適切な教材・環境は?

スキル
向上の検証

教材等の
資源

事例の
積み重ね

周囲の理解

手話通訳への謝金扱いは?

問い合わせ先

群馬大学障害学生支援室

a_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp

Tel/Fax: 027-220-7114